

刊夕日二十月三



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告費 別表
 印刷部 常設 電話 六三〇
 發行所 常設 電話 六三〇
 編輯部 常設 電話 六三〇
 印刷部 常設 電話 六三〇

ハルビン事變籠城記 (五)

ハルビン日本小學校長 白髮隆孫氏 寄

夜十一時「吾〇〇新聞社裏に爆弾を携帶せる數名の赤系露人、某所を襲はんとする傾向あり、自系露人三十餘名銃を持ってこれに對峙して故、何時火蓋を切るかも知れぬ、豫め御承知あれ」と又「傳家向方面は反吉林軍、續々後退し來る」とか「ハルビン驛方面の馬車人力車は、中國車人の專用となつてゐる」と「新市街中國赤十字病院には負傷兵が續々收容せられつゝあり」と

是等の情報綜合するに最早吾軍の郊外近く來襲せるものならんと推定し、各中隊にては皇軍入城歡迎の準備などに忙殺された。

△二月二日
 ハルビン派遣軍長谷部〇團は襲に寛城子、南嶺、昂々溪、齊々哈爾濱を陥れ、双城堡を奪取し將にハルビンを一舉に抜かんとする形勢である、然るところに敵はハルビン双城堡の鐵道を至る處破壊し、殊に五家驛の如きは現形を認めざる程大破壊をなし、吾軍の北上を容易ならしめざる形勢に陥變した。

止せんとせし東支鐵道も北滿の形勢愈々重大ならんとせる今日、此地方の治安維持は一に日本軍の力に俟つの外なしと確認し、勞農側は日本の軍事輸送を承認し東支鐵道に我軍の輸送命令を發したとのことである

四千の吾同胞將に死地に陥らんとする今日、軍部當局は非常に之を杞憂し寸刻も早くこの窮地を脱せしめんと、關東軍司令部は齊々哈爾濱にある吾精銳を西部線により哈爾濱に進軍せしむべく既に本隊は齊々哈爾濱を發して昂々溪に到着、漸次ハルビンに向つて進軍を開始せりとの情報に接し在留邦人は生を吾皇軍に受けたことを感謝すると共に更に一層の決意を加へた。

本庄關東軍司令部官は吾四千の在留民の身上を案じ、「ハルビン在留人の、生命財產危機に頻するや、余は直ちに所屬部隊を貴地に急派したが、途中進軍上思はぬ妨害に遭ひ豫期通りハルビンに到着し得なかつたことを遺憾に思ふ、併し軍は目下萬難を排して進軍中であり、軍の苦慮の程も充分諒察

されこの際自重あらんとを祈る。」との電報飛來、これによつて見るも如何に我軍司令部は吾等同胞の救助のために焦心せられつゝあるか、又北上が如何に難澁でありしか、我將士が頑強なる敵を退え、彈丸雨散の中を奮闘勇戦しつゝあるかを想察することが出来る、と同時に感激の熱涙頬を潤すのであつた。

△二月三日
 三日朝十時頃ハルビンを訪れたる我偵察機は顧郷屯方面に於て反吉林軍の射撃を受け爆彈數個を敵陣地に投下應酬し哈市新街に現はれ、特務機關前廣場に通信筒を投下せんとして低空飛行を行ふや護路軍總司令部より中央寺院南角に續く檢の社より小銃の一齊射撃を受けたが、無事に目的を果し双城堡方面に銀翼を陰した。

西部線よりハルビンに進軍せんとする鈴木〇團に今朝昂々溪を出發せしが敵は之を阻止せんがため、安達ハルビン間の方面に涉り鐵路數ヶ所を破壊し、更に西部線に増兵し松花江對岸には完全なる防禦陣地を築きこれが防備に餘念なき有様であつた。

藤田女學校生徒募集

- 一、本科 科 五十名
 - 二、裁縫專修科 百 名
 - 三、師範科 三十名
 - 四、專攻科 二十名
 - 五、本科裁縫專修科二年補欠編入若干名
- (新設)選科(夜間部) 五十名
 (夜間部) 三十名
- 右希望者ハ至急願書提出ノコト詳細ハ本校宛學則請求セラルベシ
- 昭和七年三月 福島縣平町田町 藤田女學校 電話 三二八番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町田町 電話五二三番

御裁縫用具が

澤山入荷致しました

田町 シモトヤハ糸店

小兒ノかんむしニあかひき丸堀藥局

平町二丁目 電話三二六

意用御の級進學入方様子お

靴。子帽生學

ルセドンラ

||總革製||

七十八錢
 九十錢
 一圓卅錢
 四圓廿錢

ヤルツ

○四一電

生徒募集

- ◇卒業は一ケ年
- ◇申込は四月八日迄
- ◇入學は無試験

平南町 平產看護婦學校

校長 清野 キヨ

電話三〇七番

外科

專門 專科 X
 科線光

上田外科醫院

平町南町 電話一二九番

鶏卵の下落で 農會が對策

十五夕以上のもの 一ヶ一二錢の馬鹿値

石城郡下の養鶏事業は前年の暴落林産物の惨落炭界不振に因る蔬菜類の需要激減等總ての副業が利益極めて少くなつた折柄唯一の有望な副業として茲二三年來際立つた發達を見、三十有餘ヶ町村殆ど普及され組合も亦十餘を數へる状態に於て最も誇らしき好成绩を示してゐたが昨今鶏卵が著しく下落し一個十五六乃至以上の上物が僅に二錢に満たない状態に於て中央市場に出荷するも尙さしたる利益ない上目下最も産卵少き時期にある等が因をなしか期待を裏切られたるかの感を抱き頭初めの手入乃至は設備をなす又飼料等の放任主義とする者さへ生ずるに至つたので當局では大いに驚きそれ〴〵警告を發する事となつたがこの處僅の期間だけを支持すれば必ず相場の上昇は疑ひなかるべく一時の短慮を充分慎まれないと右に就て郡農會では語る「餘りに長足の進歩發展を見たので斯うした中緩みのあるは最初から豫期はしてゐた、何事によらず熱が長過ると一寸あさが来るもので殊に物が安くなつたり又俗に

四倉漁港の 速進猛運動

七年度着工か

四倉町では問題の漁港修築を七年度には是が非でも國庫補助を得て着手すべく新妻町長外七名の委員はこの程上京農林省に向つて猛運動してゐるが町當局の意圖では大體國庫補助は得らるゝ見込みをたて、居り運動が奏功すれば直に追加豫算として七年度に計上し着手する事に万端の準備を整へてゐる

全力を舉げて

協賛會の準備

開期迫る昭和博

春の平町を飾る昭和産業博覽會は屢報の如く準備は豫想外に進捗し来る十五日頃から出陳物の受付整理に着手し豫定の四月一日から開幕を明けることになり開期の切迫と共に全町の博覽會氣分は愈々濃厚に活氣ついで來たので協賛會關係各委員は夫れ〴〵受持の任務に精進してゐるが剩すところ後二旬に迫つた今日協賛會の各種事務は尙ほ些さか遲足の觀がないでもなく青沼會長以下各委員等は全力を舉げて準備に忙殺されてゐる模様である

平商考查試験

平商業學校修業生に對する第三

い物だから

月十一日までの間に三万九千軒以上發送の場合には通算二万九千軒に達した翌日から一軒運賃七圓二十八錢の三割五分割引されたいと申請中のところ十一日附認可となつた

漁期到來して

活況の七各

春の出漁準備

石城地方の各濱は昨今海が荒れ續きの爲非常に不漁を喰つてゐたが漸く春めいて來たので今度は春の豊漁に着手する事が出来やうと大いに期待してゐる殊に例年より暖かい爲漁報も案外早く近海に發見され従つて豊漁を見るものと小名濱豊間四倉等の大網も目下準備中で又小名濱東洋捕鯨會社の捕鯨船も四月早々出漁すべく準備を急いでゐる状態に各濱共に漸次活氣を呈して來た

仲間町區長

吉田氏が再選

仲間町では是の程區長の任期満了となつたので是が改選の結果前區長吉田鎮政氏が再選したが尙左記の三氏は各區長代理に任命された
六區二丁目關内彦太郎氏
十區新川町薄葉己之松氏
廿六區月見町久田太平氏

洋炭運賃

値下認可さる

磐城セメント株式會社は磐越東線神侯驛發四倉驛到着石灰石を一日から來る九

仁井田川

改修 促進陳情

石城郡大浦村地内仁井田川は毎年降雨時に際し堤防決潰汎濫し毎年附近耕田の被害尠からず地元部落民は屢平土木監督所を通じ縣に陳情したが未だ改修の運びに至らざるところから降雨時を控へ水稻植付前には是非とも護岸改修を熱望し十日大

植田馬市場

今春から開市

植田町牛馬商組合では石城馬の産地を控えながら同方に馬市場の設け無いのを遺憾としてこの程總會にこれを提議し一致設立することになつたので今春から同町馬市場前に開設すべく目下準備を進めてゐるがこれによつて同地方の産馬開發に一轉機を齎すものと見られ一般から大いに期待されてゐる

在滿兵慰問

好問郷土通信

石城郡好問村在郷軍人分會並に村役場では同村出身廿餘名の在滿兵に郷土の通信と慰問を兼ねて今回「出征軍人慰問録」を編綴して送付する事になつたが右パンフレットの原稿は一般より募集するので希望者は半紙一枚限として同村役場へ届ら

募一二勇士遺族の 弔慰金

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も爲めに慟哭せむ、實に振古未有驚天動地の偉業にして人生を超越し洋の東西に冠絶す、古今英雄多しと雖も蓋し三勇士に如くものなからん宜なる哉其の心情英雄以上の英雄なり、今や同胞國を擧げて戦に赴かんとす誰か彼の三勇士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、内は國民の士氣を鼓舞し外は國軍の威武を宣揚する誠に三勇士に負ふ處甚だ大なるを痛感するなり、名將曰く「吾が皇國も三勇士ありて亡びず」と真に至言にして正に彼を弔ふ最大最高の弔辭なり、然り彼等三勇士こそ日本軍人の龜鑑にして大和民族發展の尊き犠牲者なり、吾人は彼等殉國の忠誠を永遠に紀念し併せて千古不磨の英靈を弔はん爲め彼の三勇士遺族へ薄志を饒け以て聊か勇士の靈を慰んとす 愛國の士奮つて賛せられんことを

主唱 阿部政右衛門
後援 常磐毎日新聞社

寄附者芳名

第七回分

四丁目	松崎	佐平	同
同	同	信正	同
同	同	治郎	同
同	同	三治郎	同
同	同	貞夫	同
同	同	竹志	同
同	同	榮助	同
同	同	仁平	同
同	同	スミ	同
同	同	阿部	同
同	同	明	同
同	同	篠塚平八郎	同
同	同	同	同
同	同	志賀安治郎	同
同	同	同	同
同	同	加藤次三郎	同

生徒が金を持寄り

病める先生を見舞ふ

貧困生に訓導の心盡し

教育美談二ツ

石城地方で昨今話題の中心となつてゐる教育美談二ツがある——箕輪村小學校訓導山田あさ子さんは受持ちの児童達が農村における財政が極度に逼迫し學用品の如きも思ふやうに購入出来なないのに同情して薄給の大半を割き學用品を買ひ求め一々支給してゐるので父兄達は非常に感激してゐる、次に平町第一校四年級受持の志賀訓導は去る八日夜俄かに發病學校を休んでゐるがこれを知つた生徒一同は非常に心配して一人一錢乃至二錢位宛金し合ひ合計一圓六錢をもつて菓子卵を買ひ見舞ひとして師の病床に届けたので志賀訓導は厚き子弟の同情に泣いて喜んでゐる

減少を免れぬ

中等校志望

平町の志願者數

平町警中、警女、平商業學校では来るべき入學試験の準備に忙殺されてゐるが十二日現在の各校入學志願者は警中定員二百五十人に對し、警女一一名である

清水ビルへ

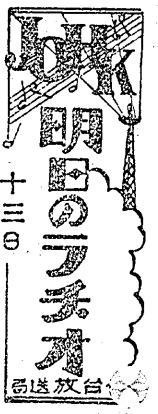
川崎本社長は東京日本橋清水ビルディングの子供會に招聘され童話出演の爲め本十二日午前五時廿分平驛發にて上京した

亂暴自動車

小兒を轢く

内郷の國道で

石城郡内郷村字綴葉葉自動車運轉手石田忠(三)は十一日午後五時半頃乗合自動車を運轉湯本より平へ向ふ途中内郷村大字小島宇新町地内を進行中同宇山重太



今晚の部
後六、〇〇(子供の時間) 手風琴によるハーモニカ二重奏 日本ハルニカ交響樂團トリオ
後七、三〇 時事講座「上海の戦線を視察して」海軍大佐武富邦茂
後八、〇〇 義太夫「攝洲合邦辻」豊竹巖太夫 鶴澤紋左衛門
後八、三〇 琵琶「川中島」大館錦旗
後九、〇〇 ビアノ獨奏 レオンロタ
後九、三〇 「奉天より」滿洲國の諸制度に就て 奉天日日新聞社
後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部
前九、一〇 養料理一切 干大根と人參の油揚巻」榮養研究所
前九、三〇 子供の時間 物語「ドンキホーテの冒險」野村雅廷
前一、〇〇 宗教講話「轉輪聖王に就て」熊本本妙寺 住職鹽田孝潤
前一、四〇 講演 「語の道しへ」實演觀世鐵之丞 解説池内信嘉
後〇、五〇 「トキキ」主題歌映畫の午後
後六、〇〇 子供の時間章

話劇「夢買ひ爺さん」金成音楽童話會
後六、三〇 時事解説 大阪毎日新聞外國通信部久島午郎
後七、三〇 放送舞臺劇「人形師」東京新宿新歌舞伎座より舞臺中繼
後八、三〇 俚謡 高松市もとも久助外 松江市遠藤お直外
後九、〇〇 常磐津「忍夜戀曲者」常磐津千藏太夫
後九、三〇 奉天より「共存共榮の夕」日滿鮮蒙露の音楽放送

相馬小僧

またも悪事

平町仲町居住スリ前科九犯相馬小僧事達藤藤忠藏(三)は去る十日茨城縣笠間町の笠間稻荷祭日の雑踏中でスリを働いた際笠間署員に取押へられたので本日平署へ同人の身元調査方の依頼があつた

平商友歓迎會

友會にては本日午後一時より母校講堂に於て本年度卒業生新會員百四十六名の歓迎會を舉行した

哀れ流浪の兄弟

平署に保護願ひ

昨十一日午後一時頃平町鎌田地内に行路病人が行倒れて居るのを町内の者が町役場に知らせたが同人は青森市柳町二二原田祐吉(三)と弟源作(三)の兩名であるが祐吉は八年前東京方面に出稼に流浪中昭和二年頃から癩病が傳染して失業したが本年一月下旬同人を頼つて就職の爲め出京せる前記弟の源作と生活難に追はれ遂に郷里へ引擧るべく徒歩で

落盤重傷

入坑中の慘事

石城郡磐崎村小野田炭礦第三斜坑で十一日午前八時半頃作業中であつた同村上湯長屋字力石居住山形縣村山郡白岩村生れ坑夫黒田久五郎(九)は高さ三尺厚さ四尺餘の落盤に遭ひ目下生命危篤である

無電完成

一般觀覽許可

石城郡豊間村鹽屋崎燈臺では過般來より無無線電話の設置工事中で一般の觀覽を許可せず居たが最近右工事も殆んで完成したので今後は毎日午後一時に限つて觀覽を許す事になつたが日曜祭日は觀覽を斷るとの事である

平町人事

△胡摩澤百井栗山周耕氏長女青子
△田町一七金子正次氏長女智子

近日掲載講談

幕末十劍士

新講談 幕末十劍士

悟道軒圓玉師

お馴染の大衆講談の名人

△十四日の紙上より連載△

磐炭軍の勇躍

愈々東北選手權大會に

縣下實業運動界の立物として活躍して居る磐城炭礦陸上競技部では今年度の準備戦として明十三日より運動を開始するが當日は初競技として同村高重温泉磐炭グランド間のマラソン競技を行ふ事になつたが尚同部では五年山形市に行はれる萬國オリンピック出場東北豫選會に選手を出場せしめ六月には東京に開催される日



【載轉禁】

渡邊黙禪 作
布施平八郎 畫

別れ路 (5)

『あッ、あそこに來ていあがる、郁子も一所たな、畜生ッ』

人混みの中から何者かを見出し浄念は目の色を變へて叫んだ。源之助と千代子はふいと首をあげて差し覗いた。

それは北川信太郎を中心に取り圍んだフィルム會社の一行であつた。美しい旅装を纏つた郁子の白い顔も人蔭から鮮かに浮いてゐた。ヘルメット帽を冠つた川島の面抜けて高い体も見えた。浄念は切齒をしてその方を睨みつけてゐたが、やがて堪へ切れなくなつた様子で着てゐた法衣をすりと脱ぎ、千代子にそれを渡してから腕まくりをして人を押分けていつた。

『あれ、爺や、お止しよ、爺やッ』
千代子は心配して呼びかけたが、その聲は四邊の騒音にかき消された、忽ちにして浄念の姿が見えなくなつた、すると入替つたやうにひよつこと二人の後ろに出て來た老人が軽く源之助の肩を叩いた。源之助はびつくりして振りかへると、それは叔父の壽屋治右衛門

であつた。

『おい、出かけるんだつてな、結構だ、しつかりやつてくれ、病まないやうに体を大切にしてくれ』

治右衛門はこゝしなから言つた、でも源之助は憤然とした返辭で



『後には浄念もあるし俺も達者であるうちは千代子の面倒くらは見られるから心配しないがえ』
『併し二人ともまた苦勞が足りない、もう二三年はみっちり苦しまなくしちや駄目だせ、おい』
源之助は黙つて息を荒く

走らせた。
ちやうど其時フィルム會社の一行の中に大きな争ひが起つた。
何やら叫びと喚きとが纏れ合つて押しつ返へしつ持み合つてゐる人波の中に、警官の大靴と川島のヘルメット帽とが浮いたり沈ん

時計眼鏡
トキワヤ
平一電三三九

だりした。間もなく人の袖の下をくゞつて駆抜けて來た浄念は汗をよきよき疾言でいつた。
『なぐつてやつた、なぐつてやつた、とうとう川島の奴と郁子とを巡査にふん縛せました、あいつらア此船には乗れませぬ』
その騒ぎが鎮まつて源之助は乗船し、春日丸が巨体を一回轉させようとした時に皆なは棧橋へ立つて手巾を振りはじめた。
その途端に踊るやうに駆けつけて來たのが歌治であつた。千代子はその姿を見て心臓も破れるやうな聲でわつと泣き出した。
『遅いわ、遅いわ、い、い、今まで待つてゐたのにどうしてもつと早く來て下さらなかつたの、さ、残念よ、残念よ』
歌治は口が開けなかつた千代子と抱き合つたまゝ、ハッハッと息を喘らして春日丸の舷上を見あげたが、もう男の影が映らぬほどに涙で眼が曇つてゐた。
力の限り千代子の肘を握つた手は痠癩るやうにふるふるえた。(完結)

『へえ』
源之助はあざれて叔父の顔を見詰めてゐたが、忽ちぼろりと大きな霖を頬に玉

大塚の 學生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇

大塚支製靴部
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……

市原醫院
平町田町(電話一四四番)
内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男
入院隨時

セメント 壁用材料
コールタール 代理店
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
西村屋藥舗
平町二丁目(電三)

専門 内科一般
宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五
川井内科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

◎火事は油断から……
時局重大の秋です、絶対火事を起さぬセロン劑を塗る事に致しませう
セロン防火劑東北發賣元
東北セロン商會
平町白銀町(電三九三)

吉田眼科病院
平町屋町、電話六八番

難波醫院
平町新川町
【釜屋新宅向】
電話五〇二番

美味! 芳醇!
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番